

平成 20 年度作文コンクール

安全振興会では、生徒の皆さんの安全意識の高揚を図るために、「安全」又は「健康」をテーマに作文コンクールを実施しています。今年度も素晴らしい作品が792編も寄せられました。大澤勝洋選考委員長、永野隆史副委員長、畠山利子、野村武、山口健一、伊藤伸子委員の6人の元校長先生に審査をお願いしました。最終選考会議では、最優秀2編、優秀6編、佳作40編が決定されました。この中から最優秀に選考された餘目直矢さん（中央農業高等学校3年）と鈴木唯さん（神奈川総合高等学校1年）の作品を掲載しました。

最優秀賞

サツマイモで解決!!

世界の食糧問題

県立中央農業高校三年

餘目直矢

神奈川県の人を上回る一千万人の人の命が、飢餓によって毎年失われ、現在世界の飢餓人口は八億人と言われています。飢餓という言葉は現在の日本にとっても決して関係のない言葉ではありません。最近の日本は食料自給率が低下し、カロリーベースで四〇%を下回っています。さらに、近年ではバイオエタノールが注目されて、海外の食料作物用の畑がどんどんバイオエタノール用の畑へと変わっているのです。食料を輸入に頼りすぎていくと、いつかは日本にも飢餓が訪れるのではないのでしょうか？

海外の生産者からしてみると、食料用トウモロコシを栽培するよりも、バイオエタノール用のトウモロコシを栽培した方が現在では高く取り引きされ、儲かり、さらに、食べるわけではないので、病気や害虫に強い遺伝子組み換えのトウモロコシを使うことができるため、多くのコムギやその他の穀物生産者も、バイオエタノール用の作物栽培に切り替えました。その結果、世界に出回る食料が減り、世界の穀物価格が高騰してしまいました。

こんな現状が拡大し続ければ、飢餓に苦しむ人々へ、食料がなおさら行き届かなくなってしまうのではないのでしょうか。そこで、現在私は、飢餓を打開するための研究にサツマイモを用いて取り組んでいます。なぜサツマイモかという、サツマイモは栄養価が高く、比較的高い気温でも良く育ち、薬効のある品種まであるからです。また、一七三二年の江戸時代に日本が深刻な食糧不足に陥っている中、現在の長崎、鹿児島県ではサツマイモを栽培していた故に餓死者を出さなかったといわれています。このような歴史を持っているサツマイモなら、飢餓を打開するための有効な作物になると思ひ、サツマイモを選びました。さらに、砂漠地域特有の塩害や気温差による寒害に耐えるべく、ブラジノステロイドという植物ホルモンを使用した耐塩性や耐寒性を付与する実験を行っています。またサツマイモのツルの利用も考え、最近話題の「壁面緑化」の研究も同時進行で行っています。栄養価があるサツマイモを食べることができ、しかも壁面緑化による地球温暖化への対策にもなり、収穫後のいらなくなったツルをバイオエタノールの原料として使えば、一石二鳥いや一石三鳥ではないでしょうか？

私は、このような活動を通して一人でも多くの人を救いたい。飢餓から救われた人々がしつかりと農業技術を習得し、飢餓を苦しんでいる人々を救う、そしてまた技術を伝承し、飢餓に苦しむ人々を救う、この緑を返しにより飢餓人口が減っていくような輪を作りたいと私は考えます。その道のりは長いかもしれませんが、緑とお腹一杯の笑顔が百年先の未来へと続いていけるように、私ができることを精一杯努力していきたいと思ひます。

最優秀賞

表現のすゝめ

県立神奈川総合高校一年

鈴木唯

人は日々、自分を発信して生きている。話したり書いたりすることは勿論、表情を変えてみたり体を動かしたりして、自分という人間を相手に伝えることができる。人は、発信しないとという行為ができない生き物である。

だが、周りに流されてしまったり、後ろめたいことがあったりして、自分の気持ちや考え、自分自身を表現できなかったこと、誰もが経験した覚えがあるのではないかな。

そんなとき、あなたなら一体どうするだろうか。

私ならこうするだろう。——歌や踊りで表現する——
私はあるミュージカル団体に通っている。ここでは、健常児と知的障害児の子供たちが一緒にあって、ボーカルやダンスのレッスンを受けている。そして年一回の公演では、プロのアーティストと共に舞台を創り上げている。私はダウン症の兄と一緒に、約七年前からこのスクールに通い始めた。

私はここで、技術的な面もそうだが、表現することの大切さを学んだ。ダンスの一つのステップにも、歌の一フレーズにも、台詞一言にも、自分や役の人間を込めて表現しなければ、観客には伝わらないのだ。気持ちを込めて相手に伝えるということは難しい。しかし舞台上に立てば、自分自身を解放し、表現することが出来る。何かの役を演じる時も、役に自分の考えを乗せ、役を超えた所で自分を表に出せる。こんなにも心が満たされることは無い……そんな気持ちになれる。

このことは私だけの問題ではない。同じスクールに通っている障害のある子供たちも、初めはじっとしているだけだった子が笑顔で歌い始めたり、思いっきり体を動かしたり……そんなとき、彼らの表情は晴れやかで、豊かであるようにも思える。

冒頭で述べたように、人は自分を発信しないと生きていけないと思う。仮に何も発信せずに生きていけたとしても、それでは自らが望むような人生を送れる確率は低い。

だから私は、自分を発信し表現し続けていくだろう。私にはミュージカルという場がある。ほかに、詩や小説・絵画等、方法は違えども沢山の発信し表現の手段がある。自分やその時に合った方法を選択し、自らを表現していくことが、全ての人間に求められている。言葉にはできなくても、芸術や何かに乗せてみたら、上手くいくことがきっとあるはずだ。

したがって、自分の表現というものを私は勧める。なぜなら、自分自身を知って欲しいから。みんなのことも知りたいから。そして、誰もが素敵な人生を送って欲しいから。